

# 日韓市民ネットワーク・なごや

会報 No.35

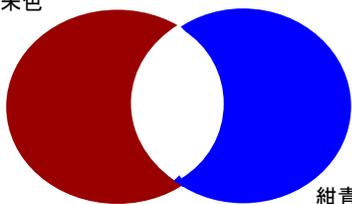
2006-10-28

일한 시민 네트워크・나고야

発行者：後藤 和晃  
〒483-8037 愛知県江南市勝佐町東郷 238  
TEL/FAX 0587-56-6788

Home Page : <http://www.nikkannet.jp/>

朱色



紺青

目次

- |                |           |
|----------------|-----------|
| 1. 巻頭特別寄稿      | 二日市 壮さん   |
| 2. 事務局通信       | 統括幹事：後藤和晃 |
| 3. ニュース        | 事務局       |
| 4. 会の活動報告とお知らせ | 事務局       |
| 5. 光州訪問団       | 参加者の声     |
| 6. 高句麗旧満州紀行    | 参加者の声     |
| 7. お知らせ・紹介     | 事務局       |

## 巻頭特別寄稿

日本の格差社会に驚く

12年間の韓国生活終え帰国 ————— 会員 二日市 壮



12年間にもなった韓国生活に別れを告げ、9月2日、日本に帰国して、名古屋ではなく家内の里の北海道東部、弟子屈（てしかが）町に居を定めました。これまでも年に2、3回は帰国し、韓国ではNHK-BSが見え、1日遅れながらも日本の新聞が読め、

AERA、週刊文春、週刊新潮が売られていたので、日本にいるのと同じだと思っていましたが、やはり帰ってみると、「今浦島」で、知らなかったことだらけです。

では日本と韓国で違うところは何かというと、それはこの12年間に日本がどうしようもない格差構造社会、不健全社会になってしまったと思うのです。大企業は未曾有の好況を謳歌しているというのに、非正規労働者、フリーター、ニートという存在が増え社会の矛盾がいつそう深まった感があります。派遣の実態を隠した偽装請負、出張旅費のごまかし、子殺し、親殺し、いじめ、自殺、離婚など社会の不健全さは、こうした背景とは無縁ではないようです。「再チャレンジ」ということばも現実の深刻さからする

と、むなしく聞こえます。先日、空港から市内まで乗ったバスはほぼ満員だったのに、話し声はまったく聞こえませんでした。にぎやかな話し声が絶えない韓国のバスからすると、異常に感じるのは、まだ日本社会になじめない私だからでしょうか。韓国にも多くの内部矛盾がありますが、なぜか韓国社会の方に、より健全さ、人間らしさを感じてしまうのです。

振り返れば日本が「失われた10年」に苦しんでいた間に、韓国は外貨危機を克服し、いまや数多くの点で日本を追い越し豊かな国になりました。安倍政権が発足し北朝鮮が核実験をした新たな状況の中でも、日本と韓国との関係は基本的には変わらないと考えます。政治的な緊張関係があっても、経済では密着と競争、国民同士の交流は拡大を続けています。こうした中で、私たちの「日韓市民ネットワークなごや」が続けてきた活動は大きな意味があったし、その役割は徐々に評価されると信じています。12年間にわたって、私の「ソウル通信」を読んでもくださった方々に感謝します。これからは私も国内メンバーの一人として会を支えていこうと思っています。よろしくお願いします。

(元韓国KBSラジオ日本語放送キャスター)

## ◎ “ 歴史を知る ” という事

この会報 35 号には、8 月に交流した光州訪問団一行の感想文が載っています。感想文を読むと光州の若者たちが、韓半島と日本の間には、古代より切っても切れない絆があることを知って驚くと共に、今までより、はるかに強く日本人に親しみを感じるようになってくれた事がよく分かります。

彼らは韓日の交流について、まったく知らなかったわけではありません。韓国風に表現すれば壬申倭乱、丁酉再乱（いわゆる文祿慶長の役）や 1910 年から 1945 年に至る日帝時代については膨大な情報を与えられています。しかし、それ以外の、古代より現代に至る、韓日間の密接な交流については、全く知ることなく、日本人に対して親近感を抱けない状況で来日したのでしょう。

それでも、わずか 5 日間の日本滞在で、光州の学生たちが韓日の交流の歴史や日本人そのもの、さらに日本文化への関心を、一気に強めてくれたことは明白です。訪問団のうち何名かは日本に留学して、更なる交流の実績を重ねられることなのでしょう。例年のことながら、真夏のホームステイを実現していただいたホストの人たちあっての成果です。事務局一同、心から感謝申し上げます。

一方で私たち日韓市民ネットの会員 21 人も、9 月末から中国東北部（旧満州）に高句麗や旧満州国の歴史を知る旅をして来ました。旅の詳細は参加者の旅行記で読んでいただく事とし、ここでは私なりに理解できた歴史の事実について、若干、感想を述べておきたいと思います。

まず、今回の旅で実感したことの第一は、古代高句麗が驚くほど高い文化を持ち、しかも中国の王朝を圧倒するほどの強大な武力を有していたという事実です。

旅の間、私たちは幸運に恵まれ続けました。高句麗初の都桓仁では日本人が殆ど訪れない山城や古墳を見学し、第 2 の都である集安でも平城から山城、好太王碑、そしてなんと古墳の内部まで入り、華麗な壁画を目のあたりにすることができたのです。

参加者の多くは日本国内の古墳や山城など古代の遺跡めぐりもしています。それだけに彼我の遺跡を見比べた時、誰しものが高句麗の文化のレベルが数段高いことを認めざるをえませんでした。

そして今回の旅で実感した 2 つ目は、明治以後の日本が、欧米の帝国主義に基づく国土膨張に対抗するためとはいうものの、旧満州国をつくり、そこで中国人や朝鮮族のバルチザンとの間に流血の戦いを繰り返してきていた悲劇を忘れてはならないということです。

桓仁で、農夫が牛車を牽き、子豚の群れが路上を走り廻っている朝鮮族の村に、壁画を持つ古墳を訪ねたのですが、実はここにも辛い歴史が残っていました。70 年ほど前にここを訪れた日本人の考古学者が「壁画古墳の近くの村は、バルチザンの根拠地になりかねないとして日本軍によって焼き払われた」事実を記録していたのです。当時、バルチザンが出没する地域の山間部の集落は殆どが焼き払われ、住民は日本軍が管理しやすい平野部の集団部落に強制的に移されたといえます。

今、中国東北部から名古屋に留学してきている朝鮮族の留学生の祖父母たちの中にも、家を焼かれ集団部落に追いたてられた経験を持つ人もいたのではないかと、あるいはついにはバルチザンとして、銃を手にしたケースもあったのではないかと思います。

交流の夏から中国東北部への旅を経て、私たちは、ますます日本と半島そして大陸との交流の軌跡をより深く知らなければいけないと確信しました。互いの歴史や心情を知るように努めながら、共感の範囲を少しずつ広げてゆくこと、これしかないと感じています。



◎ 鄭煥麒さんが故郷の大学に発展基金寄付！

～コリアンワールド紙 8月31日号より～



校長 鄭煥麒  
 校務長 鄭煥麒  
 立術グループ 鄭煥麒  
 晋州教育財団 鄭煥麒  
 国立研究財団 鄭煥麒  
 国立研究財団 鄭煥麒  
 国立研究財団 鄭煥麒

晋州教育大学校佳亨学術研究財団理事長の鄭煥麒琥珀グループ会長は6月2日、同大学を訪問し、在学生27名150万ウォンずつ総4050万ウォンの奨学金と、学術研究費4500万ウォンを伝達した。また、20億ウォン相当の建物寄付証を李勇源総長に寄託した。鄭会長のこれまでの大学発展基金は50億ウォンに至っており、「今後とも教育事業に邁進したい」と抱負を述べている。この日、同大学と5月12日に慶尚大学校で「在日の過去、現在、未来」をテーマに講演し、学生らを激励した。

メッセージ

自己を高め最善の努力を

日本の社会は実力があ式で生徒代表として答辞り、誠実な社会生活を送る人には国籍に関係なくでもないのだが、校長や認める社会だ。少し、我が家の自慢話をしたい。3000人が卒業する卒業中学3年生の孫娘が、が唯一の中国人、日本人に同じようなことをするだろうか。また、京都の同志社大学の大学祭で英語のミュージカル劇が行われ、外孫が主役を演じた。私も観に行ったが実に感動した。

嫁が近所の中学生を集めてボランティアで英語の学習塾を毎週開いている。知人から「会長の嫁

は立派な方だ」と誉められた。私事で恐縮だが、身近な例で例えただけで、韓国人が善行を行えば、周りの日本人は韓国にでもある。海外で住む外国人は差別されないの在日が主流を占めてお差別感はなくなり尊敬するようになる。己を高めるべきで励むべきだ。(6月2日晋州教育大学校)

韓日の架け橋の役割に期待

台風が来ると、「神様、2、3世の多くは祖国の韓国の方へは行かない言葉、文字、歴史、文化で」と願うほど在日の1を知らない。また、生活世は愛国心が強い。88年・就職・国際結婚などで五輪開催地が名古屋で日本国籍を取得する層は多くなっている。積極的な感覚はひとしおだ。国会議員で活躍する人も出現している。日本社会の差別と偏見(5月12日慶尚大学校)

# ◇ 会の活動報告とお知らせ

## 1. 報告

### 1) 光州学生訪問団 ( 2006年8月3日～7日 )

光州から16名を招いて夏恒例の訪問団受け入れが今年も無事に行なわれました。そして皆さんから頂いた寄付で1泊2日の奈良旅行が今年も実現しました。ありがとうございました。訪問団やホストの感想文は7ページにあります。

#### 光州訪問団のスケジュール

8月3日(木) 来日、一泊2日で奈良旅行(東大寺、平城宮跡、興福寺、法隆寺等)  
 4日(金) 夜から3泊4日のホームステイ(6日に名古屋韓国学校で交流の夕べ 70名参加)  
 7日(日) セントレアから帰国

#### 交流の夕べ会計報告

##### 1) 交流の夕べ

収入	会費	165,000	支出	料理・飲物・器類	150,800	※接遇費用に繰入れます。
				会場の飾付け	5,087	
	計	165,000		計	155,887	差引残高 9,613

##### 2) 訪問団に対する接遇・支援費用 (寄付金より充当)

収入	寄付金合計	253,387	支出	奈良旅行経費	277,365	※不足金は会費より充当。
	交流会残高	9,613				
	計	263,000		計	277,365	差引不足金 14,365

#### <寄付金> 敬称略

石田 洋子	5,000	加藤 勝	2,500	田口 良浩	5,000	平松 久仁子	3,000
伊藤 みつ子	3,000	神谷 良子	3,000	多田 敏雄	3,500	牧野 司	5,000
伊藤 義郎	5,000	窪田 みどり	3,000	崔 勝人	3,500	増田 一夫	3,000
岩下 洋子	3,000	小出 宣昭	10,000	崔 崇浩	3,000	宮本 昌子	1,587
岩田 隆司	2,000	小坂井多恵子	3,000	土岐 良文	3,000	安田 守	4,000
鵜飼 満	10,000	後藤 和晃	5,000	中川 修介	2,300	山田 あき子	3,000
梅田 徹	3,000	後藤 容子	500	長澤 進	6,500	土川 照恵	1,000
大久保 孝造	3,000	小西池 実	5,000	長田 竹子	3,000	匿名 希望	30,000
大久保 舜司	2,000	堺澤 一生	5,000	夏目 玲子	2,000	匿名 希望	4,000
太田 道子	6,500	佐々木 英之	3,000	成瀬 一男	10,000	会員外 寄付者	
大西 さおり	4,000	鈴木 一字	3,000	野村 哲	6,500		
岡崎 洋子	2,500	鈴木 幸之助	20,000	野村 博司	3,500	名古屋韓国学校	5,000
小野 賀男	3,000	須田 奈保美	1,500	橋本 公子	3,000	松本 太郎	5,000
加藤 恵志	4,500	瀬尾 文子	3,000	林 清重	5,000	朴 美姫	5,000
人員数	( 顧問・会員 : 51 名 会員外 : 3 名 ) 計 54 名					合計金額	253,387

#### <差し入れ> 敬称略

太田道子 (日本酒) 山田雅樹 (キムチ)

## 2) 高句麗旧満州紀行 ( 2006年9月26日～10月1日 )

### 高句麗旧満州紀行のスケジュール

9月26日 (火)	セントレアから大連へ、大連市内を見学後空路長春へ
27日 (水)	長春見学後集安へ
28日 (木)	集安の高句麗遺跡(丸都山城、国内城、好太王碑等学)
29日 (金)	桓仁に残る高句麗初期の五女山城や壁画古墳を見てから瀋陽へ
30日 (土)	大連へ向かい日露戦争の戦跡(東鶏冠山、二〇三高地) 見学
10月1日 (日)	帰国

紀行参加者の感想文は15ページにあります。

### 寄付の報告

今回の紀行に参加された方から寄付を頂きました。(敬称略)

長澤 明	¥10,000	佐藤 昭子	¥3,000
------	---------	-------	--------

## 3) 大邱交流団の市内見学を全面バックアップ

7月30日(日)31日(月)の両日、大邱から16名の交流団の名古屋市内見学(熱田神宮、名古屋城、栄、鳴海 etc)を会の方でバックアップしました。

参加者：韓国16名 日本：後藤・宮崎



## 4) 裏木曾一泊キャンプ

今年は中止となりました。

## 2.お知らせ

### 1) 留学生を励ます“日韓市民交流の夕べ”

日時 : 12/23 (土)  
17:00～20:00

於 : 名古屋韓国学校  
参加 日韓市民、留学生ら  
50人～60人

内容 : すしとトッポッキパーティ

参加費 : 市民 ¥3000  
学生 ¥2000  
留学生 ¥1000



## 2 ) 韓日歴史文化フォーラム発足2周年記念 講演と交流パーティのご案内

日時 2007年1月24日(水)  
 18:00～ 講演  
 19:30～ パーティ

講演のタイトル

“聖徳太子”に導かれての日韓交流

講師 法隆寺管長 大野玄妙師

入場料 2,000円(パーティ費用含み)



※大野師は世界最古の木造建築として世界遺産となった法隆寺の管長。韓国の仏教界の人々や、市民、学生とも交流のあるお坊さんだ。日韓市民ネットが韓国の学生交流団を法隆寺に案内するたび、多忙な中、自ら韓国の若者に法隆寺の歴史を熱心に語っていただいている方でもある。これほどまでに韓国との縁を大切にす大野師の心の奥底にあるものを語っていただく。多くの会員の参加をお願いします。

## 3 ) 日韓市民・大自然のつどい ～犬山市・八曾休養林

時 : 11月4日(土)  
 内容 : 川遊び、ハイキングなど自然とふれあいながらの日韓学生・市民の交流。焼肉やチヂミなど食事をしながら楽しみましょう!

参加者 : 30～40人予定

参加費 : 市民 3,000円  
 学生 2,000円  
 留学生 1,000円



#### 4) 新会員紹介

前回の会報編集以降に入会された方で、10月16日までに受付完了されている方々です。(敬称略)

佐藤昭子

### ☆ 光州訪問団 感想文

#### A) 訪問団の皆さん

##### ◎ 奈良・名古屋を訪ねて

訪問団長(光州YMCA副理事長) 姜幸玉

短いフライトを終え中部国際空港に到着すると、出口で後藤先生や宮崎先生他皆さんが出迎えてくれた。マイクロバスに乗り込み、そのまま奈良に向かう。車内から見る景色は、雄大でどこか見慣れた景色だ。奈良に近づくほど風景は全羅道の野山のように柔らかく、ゆるい曲線を描いていて親しみが持てる。この土地をナラと名づけた渡来人は、どこからやってきたのだろうか？



暑い中、東大寺と法隆寺を見学する。いずれもご住職が説明しながら案内してくれた。東大寺では一般人が入ることのできない大仏の膝のそばまで登らせてもらい大仏や大仏殿、そして仏教のことなど詳しい話を聞いた。大仏の铸造

にあたった国中麻呂造仏長官の祖父は百済の達率という位にあった高官であったことなど印象深かった。

また法隆寺では古代史に該博な知識をお持ちのご住職が「法隆寺を建設する頃、高句麗や百済から多くの高僧が日本に渡ってきた。しかし、その時期は日本と韓国の言語は同じで意思疎通に問題はなかった。」と説明してくれた。ところが学生にはにわかには信じられなかったようで、私が本当だと言っても二人がグルになっているんじゃないかと疑っていたようだ。



法隆寺は7世紀の初めに聖徳太子や推古女帝の冥福を祈って建てられた寺だ。その聖徳太子には百済の聖明王の生まれ変わりという見方が一部にあるという。興味が尽きない。

ホームステイした後藤先生のお宅の近くでは、盆踊りが行われていた。着物を着た男女が楽しそうに踊っていたが、繰り返しかかっていた曲は“炭坑節”だった。その昔、半島から九州の炭鉱に沢山の韓国・朝鮮人が徴用で来ていたが、

その土地から広まった歌や踊りだという。一見、陽気なメロディーの響きを徴用されてきた人々はどんな思いで聞いていただろうか？家に帰って眠りについても炭坑節の調べがいつまでも私の脳裏で鳴り響いていた。

## ◎ 忘れられない旅

光州YMCA：朴 慧沃



私たちにとって 8 月での日本滞在のことはとても忘れられない日々でした。

ときめきと少し不安な気持ちで初めて行くことになった日本、そこで皆さんの暖かいもてなしを受け、日本は今までよりぐっと身近になり、

私の友達そして私のふるさとなりました。

最初の訪問地の奈良での文化探訪を通じて、古代日本と我が国がとても友好的な関係であったことも学び、4泊5日のホームステイの家族を通し日本人たちがとっても親切で暖かい人たちであることも学びました。

韓国に帰ってから皆様のことを思い出しています。皆様のご健康をお祈りいたします。

本当に本当にありがとうございました。

## ◎ 日本旅行記

光州YMCA：朴知慧

初めての海外旅行で寝付けず疲れていたが、心は元気で違う世界への希望に満ち溢れていた。名古屋空港に着くと、歓迎のプラカードと共に後藤さんが丁寧に韓国語で案内してくれた。何故だか日本人に対する先入観が壊れていくような気がした。

韓国とよく似た環境だが、造成された森、初めて口にする日本食、奈良の鹿の多さが印象的だった。また、東大寺ではご住職の案内で仏教をより詳しく知ることが出来た。

仏教の本質は慈悲の心だといい、仏の慈悲は、あたかも太陽の光のように誰にでもへだてなく降りそそいでいるとのことだった。

名古屋で生活するに当たり、期待と不安でドキドキしていた。そんな中で後藤啓太君と彼の家族が、親切に暖かく出迎えてくれた。慣れない場所ではあったが、日本について詳しく知る

ことが出来たし、色々お話ししながら楽しい時間を過ごすことも出来て大切な思い出となった。幸せな時間だった。日本で面倒を見てくださった家族の皆さん、本当にありがとう。良い機会を与えてくださり、本当にありがとう。



## ◎ 紀行文

光州YMCA：鄭秀知

初めて行く日本。言葉も出来ないのに生活していけるか、とても不安だった。最初の目的地は奈良。ここには鹿が多く、道端にもいる。法隆寺や東大寺を見学したが法隆寺ではえらいお坊さんが「世界遺産のこの寺は古代朝鮮の高僧たちや工匠の手で創建されたものです」と話され誇らしい気持ちになった。

名古屋では、棚瀬さんが案内してくれた。奥さんは韓国語がとてもお上手で、随分気が楽になった。彼女の案内で老人福祉施設を見学する。設備が整っていて、韓国もこれくらい発展すれば良いのになと思った。また、私に服や靴、そして土産なども買ってくれた。最終日に見学したりトルワールドも、とても面白かった。

ホストの皆さんと別れの挨拶をするのがなんとも寂しい。今度日本に来るときは、もっと日

本語を勉強してお互い日本語で話そうと奥さんと約束を交わし、今回の旅行を終えた。

## ◎ 名古屋を訪れて

光州YMCA：李成九

初めて訪れた日本。到着時からずっと案内して下さった宮崎さんのお宅にお世話になる。名古屋での最初の夜は、宮崎さんの手製のキムチチゲで酒を交わす。宮崎さんの韓国に対する愛情は特別なようで、日本には小泉元首相のような人だけでなく、韓国を愛しお互い良い関係を築く為努力している人もたくさんいることを分かって欲しいと仰った。それで宮崎さんもこのような活動をされているわけで、その姿には感動させられる。

加藤さんのお宅にもお世話になったが、皆さんとても情が厚く、家族のような感じがする環境だった。日本に来る前、日本に対して少々敵対心を持っていたが、別れのときは名残を惜しむ感情がこみ上げてくる。韓国に帰ってからも、宮崎さんの顔が目浮かぶ。今度日本に来る機

会があれば、必ずや会いに行きます。その時までお元気で。市民ネットの皆さんやホストの皆さんにも、また是非お会いしたいです。



## ◎ 名古屋の特別な5日間

光州YMCA：金愛貞

最初はあまり日本に興味はなかったが、出会った日本の曲と大学のカリキュラムが相まって日本に行きたいと思うようになり、日韓文化交流プログラムへの参加を決めた。

日本に着いて、まず奈良を観光する。東大寺や法隆寺等名所も印象に残っているが、徹底されたゴミの分別や時間を守るという韓国にはあまりない習慣に触れることも出来た。

そして名古屋では、ホストの山田君が韓国語で案内してくれた。地球科学を選考する私にとって、地球環境保護活動に市民が気軽に参加できるEXPOエコマネーはとても新鮮で羨ましい事業だった。また、大須観音の夏祭りで盆踊りを踊った。皆が一つの輪になって踊るという文化も、韓国では得られない貴重な体験だった。

楽しくて短かった5日間。出国手続きを終え

ると涙が出てきてしまった。そして光州に帰った今、日本に留学するという夢が私を奮起させてくれた。



## ◎ 日本旅行記

光州YMCA：朴智永



期待と不安で始まった4泊5日間の日本旅行は、言葉では表現出来ないくらい意義深く、日本という国のことをたくさん学ぶことが出来た。名古屋空港に着くと、多くの日本の方が歓迎

## ◎ 4泊5日の日本旅行

期待と不安を胸に、中部国際空港に到着。日本の皆さんの韓国語にはただ感嘆するしかなかった。徹底した準備を経て私たちを受け入れてくれたのだが、何となく旅行しに来たという思いを私は反省することになる。バスで奈良に向かう道中、車窓から眺める景色は韓国とよく似ていた。それでも旅館の中は綺麗に整理されていて、日本らしさを感じる。

ホストの方は韓国語がお上手で、日本語が出来ない私には嬉しいことだった。また、家には子供が多く息詰まりそうな雰囲気があったものの楽しく過ごせた。イタリア村や熱田神宮、白鳥庭園など色々なところを案内してくれた。短くもあり長くもあった4泊5日間。いざ別れの

## ◎ 日本への旅行

私は日本に特別な関心を持ったことはなかったが、旅行好きな私はこのプログラムを知って即参加を決めた。出発前に団長の話で単純に旅行だけでは終わらないことを悟り、日本に着くとそれが一層感じられた。

奈良の東大寺や法隆寺では、仏教の歴史を通じて韓国と日本がどれだけ密接な関係にあったかということ再度認識した。そして名古屋でのホームステイ。最初は緊張していたが、ホストの家に向かう間に緊張はほぐれ、気がつけばホストのご夫婦をパパ・ママと呼ぶくらい親しくなった。沢山のお話を通じて、本当の親子のような情を築いていった。

イタリア村や名古屋城など色んなところを案内してくれたけど、市民が一同に集まって踊る

してくれた。韓国語で熱心に案内して下さる後藤さんに、日本側の配慮が感じられる。最初に見た奈良・興福寺の五重塔は、韓国の塔とよく似ていて親近感が感じられる。また、世界最大の木造建築物である東大寺が印象深く、ご住職の説明でより詳しく知ることが出来た。

名古屋では梅田さんが色々な名所を案内してくれた。しかし、バーベキューなどの歓迎会を通じてご家族の方とたくさんお話をしたことの方がより大切な時間になった。親切な皆さんと過ごせた3日間はとても幸せだった。是非もう一度訪ねようと思う。

最後に、3日間お世話をして下さった梅田さんに心からお礼申し上げます。

光州YMCA：金貴徳

時、足取りは軽くなくこの間の情がたくさん出てきたようだ。私の人生にあって初めて見てみた今回の旅行は、日本に対する転換点になった。



光州YMCA：金福姫

大須観音の盆踊りが一番印象に残っている。短かった4泊5日間。帰り際に再会を約束した。それ程に皆さんの親切心が嬉しかった。そして私自身も大きな物を掴んだような気がする。



## B) ホストの皆さん

### ◎ 新しい家族

会員：梅田 徹

2年ぶりに我が家へ韓国から大学生がやって来ました。国際センターでのホストとの対面式、紹介から漏れて私との対面が出来ずに不安顔の朴智永氏……一瞬これからの滞在に不安が過りましたが……それもこちらから声をかけた瞬間に雲散霧消、その可愛い笑顔と共に我が家でのホームステイがスタートしました。最初は得意の？韓国語がなかなか通じずに苦労しましたが、お互いにお酒が入ると絶好調、私の異常な韓国語も何とか通じたようです。(と言うより、聞き取ってくれた朴智永氏の語学力に脱帽)、疲れているにも拘らず初日から夜遅くまで歓談しました。女房からは、“貴方がしきりに話すから、落ち着いて食事が出来なかったようよ”と叱られました。

翌日からは異常な暑さの中(確か体温と気温が同じ)辞書片手に、[落語鑑賞：日本語は分からなかったようですが、落語家が一人で数人を演じ分ける芸に感心][ツインタワー：二人で恋人気分にと、私だけが勘違い][有松界限：日韓合作映画「あなたを忘れない」のロケ現場に遭遇、韓国に劣らない日本のアジマ軍団のパワーを垣間見た。また、撮影のために山車が出ていて、からくり人形の演技を見ることが出来た上に、普段は有料である有松絞り会館が撮影のため今回は無料と良いことづくし][安城の七夕まつり：浴衣姿の女学生と一緒に写真を取り、短冊に願い事を込める。韓国語では翻訳しないと願いが届かないよ！と冗談を][大須観音：太鼓の演奏とリオのカーニバル大行進に妹の朴智慧氏は大興奮、サンバのリズムが体を揺さぶる][酒の文化館：お酒の試飲に大満足、アボジのお土産に美味しい日本酒を購入][酔の里：とても通訳できない難しい説明とお酔の強烈な臭いに顔をしかめ][半田保健所：私の職場を見学してくれDNA検査に“すごい！”私の同僚と記念写真][スーパーでの買い物：似ているようで少し違う日本の食材に関心を][韓国学校での日韓学生市民交流の夕べ：美味しい料理と友人に囲まれ楽しい時間]と3日間に亘りかなりな強行スケジュールでしたが、日本の文化・日常生活を楽しみました。偶然に妹さんと半日、一緒に観光をすることになった時の彼女の安堵と微笑みの入り混じった顔が今でも忘れられません。(ちょっとホームシックだったかな？と当方の気配り不足に反省！)お陰で、我々夫婦は姉妹の父親・母親気分を十分に味わう事が出来ました。(本当に娘は可愛いですね！)

土曜日に開いた我が家の歓迎パーティ、兄・姉・息子・友人夫婦等が集まってくれ、総勢12人となりました。焼肉とビールを片手に、年配者は日本語、韓国語、若者は英語、中国語と4ヶ国語が飛び交い、その賑やかなこと正に国際交流となりました。(インターナショナルやなあ〜と思いつつ、お隣には夜遅くまで迷惑をかけました。)

帰国する当日、朝から天気は快晴、されど我々夫婦は虚脱感におそわれ、心は晴れませんでした。彼女が帰ってしまうことを考えたくありませんでした。しかし、時間は無情にも過ぎていきます。空港で最後のティータイムを楽しみ、いつか夫婦で光州へ行くことを約束しました。いよいよ出国審査の時間となり、これでお別れかと思うと寂しさが込み上げてきました。でも、帰国する彼女氏の笑顔は我々夫婦を癒してくれました。彼女達が無事に帰ることを祈り見送りました。

女性のホームステイは初めてで、娘を育てた経験の無い私達夫婦は少し不安がありました。どのように接したらいいのか(いつもの様にパンツ一枚で歩き回ってはね〜?)、どんな話をしたらよいのかと、色々と考えましたが杞憂でした。本当に気立ての良い女性であつと言う間に過ぎた3泊4日間でした。彼女が最後に“楽しく過ごせました。有難うございました。”と言われた時は胸にジーンとききました。私達夫婦は彼女に言いました。“楽しんだのは私たちです。ホームステイで学生さんも楽しんだと思いますが、本当は我々が楽しませて貰っているのです。我が家に来てくれて有難う”

夫婦が健康で、学生さんを受け入れることが出来る境遇に感謝し、日本にホームステイに来てくれる韓国学生に感謝し、このような素晴らしい出会いに尽力くださる日韓ネットワークの皆さんに感謝しています。

今回の日本旅行を契機として、朴智永氏たちの世代が新しい日韓関係を築いてくれることを期待しています。

(納豆を美味しいと言いながら二の箸が出なかったね。その笑顔が今も思い出されます。)



## ◎ 「ケンチャナヨ！」

会員：佐々木英之

3年ぶりのホームステイ受け入れということもあり、久しぶりに胸躍らせて8月4日を迎えました。今回は国際センターに到着しだいホスト宅へ行くことになり、学生たちが順次紹介され、すぐ親しげに言葉を交わし、センターを後にして次々去って行きました。我が家には「金福姫」さんが紹介されました。彼女は少し不安げな様子です。韓国語で挨拶をした後、私は日本語で、“さあ、車で家へ行こうか”といったとたん、彼女は団長やスタッフのところへ行き、盛んにホストは韓国語が解らないようだ、どうしようかと訴えているようでした。ここでは私たちが韓国人精神になりきってケンチャナヨ大丈夫といい、彼女もみんなになだめられ、やっと家路に着きました。車中での話は韓国語、英語それも単語で意味が通じたかどうか・・・

我が家に着いてほっとしたのか（私が？）ビールがのどを潤し、名古屋名物の料理など彼女は好き嫌いなく箸が進むにつれて、私の拙い韓国語にもしっかりと耳を傾けてくれて、話が弾みました。翌朝は納豆を美味しいとおかわりをするポッキーに驚かされました。

2日目からは佐藤さん鈴木さんの協力で名古屋城を見学、趙さん、イムさんと一緒にポッキーも心強いようでした。その後大須夏祭りへ。大須ではポッキーたち3人だけで行動し名古屋の下町を堪能したのではないかと思います。

## ◎ 真嬉(チンヒ)ちゃん、また来てね！

会員：岩下洋子

8月7日のセントレア、我が家にホームステイした金真嬉ちゃんが出国ゲートに入ってゆき姿が見えなくなったとたん、再び涙がこみ上げてきました。つい先ほどまで彼女は別れを惜しんで涙を流す私の手を握りしめ、自分のハンカチで私の流れる涙を何度も拭いてくれたのです。

夜は大須観音の境内で盆踊り、「一休さん」「丸八音頭」など上手に踊るポッキーはいつものまにか踊りの輪に溶け込んでいました。帰宅後も12時近くまで話しこむ始末。3日目の午後ポッキーたち3人でイタリア村へ行き楽しんだようです。

今回のホームステイではホストとの行動ばかりでなく、自分たちだけで行動することができたことは、本人たちにとって、いい経験になったと思います。

私達は、ポッキーのおかげで毎日ハングル漬け、大変勉強になりました。メールのセッティングもしてくれ、来年また会う約束をしてしまいました。

帰りの空港では大声で「엄마,아빠」と呼ばれ大感激！しばらくしてポッキーから

「엄마,아빠 ^^」無事光州に着いたとメールを受け取りまたまた感激に浸っています。

「神様はなんと気立ての優しい娘さんを私の家に送り込んでくれたのだろう…」そんな思いでいつまでも涙ぐんでいる私をハングル教室の仲間の市川さんをはじめいろんな人たちが肩や手に触れながら慰めてくれました。

「会員歴がまだ浅く、韓国語も習い始めたばかりの私が、果たして日本語が充分話せない韓

国の女子大生を3泊4日の間、ホームステイさせられるだろうか？」当初、会の事務局から打診があった時、最初は真剣に悩みました。そんな私をハングル教室の仲間の市川さんをはじめ、韓国映画にはまっている種村さんや湯浅さん、窪田さんなどの友人たちが「私たちも応援するから、やってみたら！」と励ましてくれました。

そして8月4日の夕方、国際センターで真嬉ちゃんを迎えたのです。おとなしそうな印象の彼女の表情に不安の影が浮かんでいました。私はさっそくハングルで語りかければと思ったのですが、「話さなければ！」と思うほど頭の中は真っ白になり、やっと「アンニョンハセヨ！」と「キダリセヨ」という言葉を口にすることができました。以来四日間、彼女のおかげで私は人間交流の素晴らしさを体験することができたのです。

彼女のおかげで私が体得したことの第一は、自分の心を伝えようと思えば、簡単な単語とジェスチャーだけでも、かなり伝わるということでした。真嬉ちゃんは片時も辞書を放さず、言葉を探し、私に語りかけてくれたのです。私の家は狭いので、夜は同じ部屋で枕を並べて寝たのですが、そんな時でも懸命に会話しようとする姿勢が嬉しく、いつしか自分の娘のような気がしてきました。

翌日は、私の故郷、信州の風景をたっぷりと見せてあげたいと仲間の湯浅さんの運転で種村さんも誘い、信州まで行きました。横岳にロープウェイで登った後、白樺湖、霧ヶ峰も回りましたが、長旅の疲れとこの暑さとが重なって、真嬉ちゃんは頭が痛くなったようでした。彼女の体調を思いやれなかった私の失敗でした。反

省！！

翌6日は一緒にハングル教室に行き、授業のあとはスンフン先生や市川さんらと昼食を摂りました。皆さんの思いやりを受けて、真嬉ちゃんも上機嫌で、そのまま韓国学校の「交流の夕べ」に向かい、交流を大いに楽しんでいました。「それにしても韓国の若者は、どうしてこんなに思いやりがあるのだろうか！？」と彼女と過ごす間に私は、そんな疑問にとらわれました。信州に行った時も百貨店に行った時も私の足元が危なげに見える時は、彼女はいつの間にか私の手を取り、私を守って歩いてくれたのです。ハングルを教えてもらっているスンフン先生にもそんな優しさを感じたことがあります。年長者へのいたわりを忘れない態度に心うたれる毎日でした。

初めて家に迎え入れた韓国の女子大生のおかげで、私は一生懸命言葉を伝えようと努力しなければいけないことや、人としての優しさを他国の人にも当然のように発揮しなければいけないことなどを改めて心に刻みました。

「真嬉（チンヒ）ちゃん、必ずまた遊びに来てね。待っていますよ！」



## ◎ Home stay 日記

ホストファミリー：土川照恵

今回、会員でない私がホストファミリーを引き受けさせて頂いたのは、幹事の後藤和晃氏と同級生ということで頼まれました。

お引き受けしたものの、日本と韓国は、戦時中のこと、植民地時代のこと、そして今も問題をかかえています。ちょっと気の重い面もありましたが、ここは隣国である韓国を少しでも理解できたらと思い、お世話することにしました。

これまで高校生、大学生、社会人を長い人で一年間、10ヶ月、2週間…とホストファミリーの体験して来ました。私も仕事を持ちながらのときもあり、主人も随分助けてくれましたので無事過ぎてきました。

### 一日目

孫の音楽会と韓（ハン）ガウイの出迎えが重なったので、後藤氏に家まで連れてきていただいた、野球帽を目深にファッションナブル女の子が車から降りてきた。家の中に入っても野球帽をとらないので、「日本では取るのよ」と言いかけて、これはファッションなんだ…日本のテレビを見ればあったっけ。今日は朝から忙しかったので夕食は外で和食を食べた。

私は韓国語が全く話せないのですが、日常会話くらいだったら英語でと思っていたが、彼女は英語は話せなかった。韓国では英語は第二言語として力を入れているとテレビで見たことがあるが……。きっと日本の様な文部科学省の仕組み

と違うのだね。

彼女が大学で日本語を専攻しているので助かった。

トイレ・風呂とエアコンの使い方を教え、早く休ませる。

## 二日目

長い髪とワンピース姿もとても可愛い。元気な姿にほっとする。

朝食のパン、サラダの盛り合わせ、ぶどうなど美味しいと全部食べる。

午前、私の詩吟教室に連れて行く。私と並んで授業を受けたが、結構難しい漢詩を声に出し吟じていたのには驚いた。

午後、主人、近くに住んでいる娘、孫（中女子）と犬山城へ。歴史に興味があるようだ。次にプリクラを撮ったことが無いと言うのでアピタへ。撮ったのを見たら、日韓と落書きした中で二人の少女の顔が笑っていた。

夜は、江南市の七夕祭りへ行く。韓国には、夏祭りのようなものは無いと言う。写真は撮ったが、買い物には興味をしめさなかった。

一日引っぱりまわしたので、早く休ませる。

## 三日目

朝食のパン、サラダの盛り付け、豚のソテー、桃、全部食べる。

午前、近くの後藤氏、姜団長さんをお招きし簡単な茶会をした。韓さんに浴衣を着せたらとても喜んでくれた。昨晚、夏祭りの日本の女の子浴衣姿にあこがれていたの、特に嬉しかったようだ。何度も鏡の前に姿を写していた。

お饅頭の運び方、お辞儀の仕方、足の運びなど一度で覚えるのには驚いた。

彼女に浴衣がとても似合ったので、私のお古でよかったらと御土産にした。余分の事はあまり話さないが、イエス・ノーははっきりした子であった。喜んで貰ってくれたのでお古でもよかったかな。

韓国に帰ってもすぐ自分で着れるように、着付けもたたみ方もマスターした。

午後、信長・秀吉・家康の特別展を徳川美術館へ見に行く。韓さんはメモしたりパンフを集めたり熱心に一つ一つ見ていた。

夜は訪問団とホストのパーティがあり、韓さんは久しぶり？に友達に会えると楽しみにしているようだった。訪問団の代表の中に韓さんの日本語のスピーチがあったが、後藤氏からその場で突然に頼まれたのに、内容もしっかりと話したので、感心した。頭のよい子だ。光州には学者が多いと後藤氏が言っていたっけ。

## 四日目

疲れたのか少し慣れてきたのか、今日は起こすまで寝ていた。

朝食を済ませ、名古屋城へ行く。一番暑いときなのにそんなの気にならない。名古屋城は彼女のリクエストだった。犬山城と比べて大きいことと、金のシャチに関心があるようだった。

3時の集合時間まで1時間彼女は家族の買い物を楽しんだ。

## おわりに

韓さんが帰ってから彼女の部屋へ入った。ドアを開けると女の子のかぐわしい香りがした。部屋はきれいに整頓されていた。居間には紫の封筒に入った手紙が置かれてあった。十分話し合うことはできなかったが、3泊4日の触れ合いの中にそれぞれ感じるものがあったと思う。

韓さんありがとう。そして、これまで8年間も地道な活動を続けてこられた後藤氏をはじめ、多くの皆様に頭がさがります。ありがとうございました。

最後に韓さんの手紙を紹介させていただきます。

## To. 土川さん

もう韓国に帰るときです。

短い時間でしたが、とても楽しかったです。初めは少し緊張したが、みんな楽しくしてくださいだったので、とてもよかったですと思っています。

おいしい食事ありがとうございました。

暑かったのに、いろいろな所に連れて行ってくれてどうもありがとうございました。

何よりいろいろな経験が出来て、たとえば、漢詩を歌ったことや犬山城へ行ったことや着物を着て茶会をしたことや徳川美術館にいったことなどが、とてもよかったです。

また、娘さんとだんなさんの家族にもありがとうございました。

土川さん、ご夫婦から多くのことを学びました。

韓国に帰って熱心に勉強して、また日本にきたいです。土川さんも、いつか必ず韓国に来てください。どうも、ありがとうございました。

From ハン ガウイ【編注：8文字空白右寄せ】



## ◎ 初めてのホームステイ受け入れ

会員：後藤容子

今年の夏、初めてホームステイの受け入れをしました。3月に長男が、光州でホームステイをさせていただき、心のこもった、それこそあつい歓迎を受けたのでそのお礼の意味もありました。ただ、一つ問題がありました。家に泊まることを主人が快く思わないため、ホームビジットや日本滞在中のお世話はできるものの、夜をどうしようか、あれこれと悩み近くのホテルに泊まってもらおうかと

考えていました。後藤さんにもそのことをお伝えすると、「恵太（長男）が夜、一緒にそのホテルに泊まるのならいいだろう」と言ってくださいました。

そこに救いの女神の伊藤みつこさんが現れ、宿泊先を提供してくださると申し出てくださいました。その申し出をありがたく受けて、二家族で学生さんを受け入れることになりました。受け入れまでの間、伊藤さんと計画を相談しました。そうこうしているうちに学生さんたちが到着し歓迎の奈良旅行に長男が出発しました。伊藤さんは、お掃除などされて準備して見えました。いよいよ顔合せとなりました。朴智慧さんは、とてもきれいでかわいい方でした。「実は、双子らしいですよ」と梅田さんがおっしゃるまで分かりませんでした。お姉さんは、梅田さんのお宅でホームステイすることになったいました。それで二人から「できれば二人一緒に行動したい」とお願いがあったのですが、急に言われたこともあり梅田さんも伊藤さんも一人分のベットしか用意してないと断りました。そのせいか、智慧さんはその後も元気がないようでした。早めに分かっていたら、受け入れ側で相談することもできたでしょうが、あまりに急なことで当初の予定の通りになりました。

智慧さんを囲んで、伊藤さん、長男、私で食事をしながら話をしました。いざとなると韓国語が出てこず、勉強中の英語も出ず、困りました。それで、つい日本語で話しかけ彼女を困らせてしまいました。ホームステイで言葉の壁に

直面した長男は、とにかく伝えなくてはいけないと英語で一生懸命話しかける姿がとても頼もしく感じられました。自分が言葉の分からない場において肌で感じた思いを彼女にもさせてはいけないと思ったのでしょうか。その後も彼は、自分の表現で一生懸命彼女に話しかけていました。そんな姿に彼の成長を（親ばかりですが）感じた私です。翌日会う場所を決め、智慧さんは、伊藤さんのお宅に行き、分かれました。

翌日は、午前中恵太が栄のテレビ塔案内し、その後私も合流して我が家に遊びに来てもらいました。折しも安城市では、七夕祭りの最中でした。七夕見学をして私の作った夕食を食べた後、伊藤さんのお宅まで送りました。地下鉄、JR、近鉄といろいろな電車にも乗ることができ、よい経験になったのでしょうか。あまり自分から話をする人ではなく、とてもおとなしい彼女ですが、日本の印象を「きれい」と話してくれました。

次の日は、日曜日で午前中は、科学館に伊藤さんと出かけた後お姉さんと会い、お昼を一緒に食べ、やっと食欲も出て元気になったようでした。

最後の日になり、私が智慧さんを空港まで送ることになっていました。午前中大須でおみやげを探しました。100円ショップがあったので、入るとお母さんに日本のお菓子を買っていました。陶器の店で関心があるのか熱心に見ていました。急須を手に取り悩んでいましたが、インテリアにすると購入しました。

休憩で入った大須茶屋で小さな包みをくれました。ラーメンとのりと韓国うちわでした。そして手紙が入っていました。夕べ書いたもので、日本語で書かれていました。昼食を済ませ、そのあと名鉄電車で空港へとむかいました。

いつも静かにほほえんでいる智慧さんでした。多く話さず、聞けば答えてくれる。私の韓国人のイメージを少し塗り替えてくれた人でした。彼女にとってこの経験はどうだったのか、教え

てほしい気もしました。いただいた手紙には、今度私が光州に行ったら案内してくれると書かれていました。どんなもてなしをしてくれるのか、どんな光州の見所をあんないしてくれるのか、楽しみです。伊藤さんに助けていただき、

## ☆ 高句麗紀行 参加者の感想文

### ◎ 高句麗・旧満州を旅して

会員：伊藤義郎

五泊六日の今回の旅、その一番の楽しみは「好太王碑」を見ること、伊藤秋男先生から講義のあった高句麗時代の古墳―積石塚・封土塚―や山城などが、現地で見学できる事でした。できれば奈良の橿原考古学研究所付属博物館でみてきた「高句麗壁画」のようなものがひとつでもみられたらという期待もありました。

これらの願いや期待が全て叶えられ、その上各地で予期せぬ感動や考えさせられる史跡・観光スポットが多くありました。そのうちの二つ三つを書いてみたいと思います。



まず「好太王碑」です。碑の高さは6.3mの柱状角礫凝灰岩の四面に、総計1802字の碑文があります。碑文は三部からなっていて、第一部は建国の話、第二部は広開土王（好太王）の功績が記されており、この中に「倭」の文字が十幾つ出てきて、高句麗と倭との戦、攻防が出てきます。第三部は墓守（烟戸）についての記述です。

私が興味をもったのは、高句麗を建国した「朱蒙」の誕生神話です。水神（女性）が天神と結ばれその後、日の光にあたって妊娠し、水神は大きな卵を生みます。その卵の中から朱蒙

終えることのできたホームステイでした。

できたら、長男がお世話になった朴君が来てくれたらとも思いました。また、いつか光州に行くことがあれば、会って恵太がお世話になったお礼を言いたいと密かに思っています。

が出てきたというのです。この中で“天神と水神の結合”や“卵生”は南方海洋民族文化圏の神話、“日の光で妊娠”という日光感精神話は北方大陸文化圏の神話といわれています。ということは高句麗文化は南方系と北方系の融合したものといえます。事実過去にこの地方に南から人々が開拓のため入ったとの話もあります。

この“天神・水神の結合”の話は日本にもあります。伊勢神宮にあるのです。七世紀末からアマテラス神を祭る以前から祭事は続いています。宇治橋を渡って進んでいくと右側は五十鈴川の川原がみえます。あの川原あたりに天神が降りてきて川の中に入り、再生する（御生れ＝ミアレ）祭事です。

このことから古代高句麗文化にも日本の伝統文化にも共通の海洋文化・神話のDNAが組みこまれているのではないのでしょうか。高句麗神話からついロマンの世界に迷い込んでしまいました。

ロマンの世界から現実に戻ります。私達は長春で「偽満州皇宮」を見学しました。この「偽満州」という表示にいささか抵抗を感じました。戦中に育った世代のせいでしょうか。

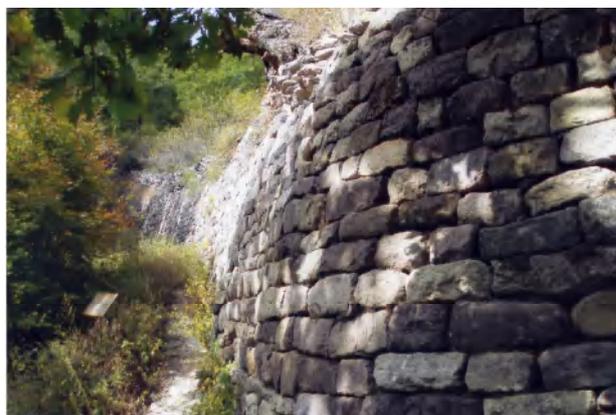


日本軍部、特に関東軍の傀儡にされた溥儀皇帝の無念の生活を歴史の一頁として受け止め見学しました。日本に帰ってすぐ「流転の王妃の昭和史」（新潮文庫）を読みました。書いた人は王妃本人、瑤瑛公爵の長女“浩”さんです。日本軍部の横暴によって無理やり政略結婚させられたのです。相手は溥儀皇帝の弟溥傑氏。浩さんは愛新覺羅浩として日中の懸け橋の象徴とさ

れました。しかし戦争が終わってからというもの溥傑氏と離ればなれにされ、動乱の満州を辛酸をなめて流浪して帰国、大学生の愛娘は天城山で無理心中の悲劇にあい、そして十六年ぶりに溥傑氏と再会するという胸を打つ感動の実話です。その底には心あたたまる夫婦愛が貫かれていて読む人の心を救ってくれます。一人の日本女性を通して満州を舞台とした昭和史の一面を学んだ思いがあります。これも長春で溥儀皇帝の皇宮をみたおかげと感謝しています。

集安で鴨緑江の川岸から対岸の赤茶けた荒れたような殺風景な山並みを見ました。この景色がなぜか脳裡に焼きついています。帰国したその日、テレビで横田めぐみさんの両親が集会で拉致問題を訴えておられる姿をみて、今までとは違った感慨を持ちました。

五女山城も思い出になります。1999段の石段が真直ぐ上にのびているのを“直登”しました。一緒に登っていただいた田口良浩さん、伊藤みつ子さんに改めて御礼を申し上げます。



旅に出ると、写真代わり思い出にと俳句を作るよう努力しています。こんな句ができました。

ひた走る 玉蜀黍の 満州路  
誰ねむる 古墳の群や 赤まんま  
トーチカの 弾痕悲し 野菊かな  
激戦の 高地に挽歌 秋の声  
大連の 秋の夜ばなし 母のこと

最後になりましたが、今回の旅行を企画し案内していただいた敬愛する後藤和晃さんに心から感謝と御礼を申し上げます。お聞きしたところでは下見旅行の時は冬で、集安へ入る山道は凍りついていて、それこそ命の縮む思いをされたとのこと。幸いにも私達は好天に恵まれると共に、その難所の山道は新しくトンネルになり、苦もなく峠越えができましたことも感謝しなければと思っています。ありがとうございました。

## ◎ ミステリーツアー—歓迎光臨

会員：宮本昌子

旅行会社の宣伝によくある「ミステリーツアー」はどこへ行くか客に知らせず出発するものだそう。今回の私たちの旅行は行先も宿泊地もはっきり明記されていたのだが、予想外の出来事もありスリルとサスペンス溢れた旅だった。

まず大連空港で一人足止め。しばらく後に出国許可が出たが、理由はわからないままとなった。この先も何か次々に事件があるのでは？無事に全員そろって帰国できるだろうか？と一抹の不安がよぎった。以下はそのはらはら・ドキドキのもようをスケッチしてみた。

### \* 偽りの王宮

名前からもう怪しい雰囲気のある長春「偽満皇宮」はホラーハウスのようだった。清王朝最後の皇帝愛新覺羅溥儀は1934年に満州国の皇帝になったが、実権は日本軍が握っていた。彼の公私にわたる生活の場が再現されていた。皇后のアヘン吸入室では人形が横たわっていた。第4夫人と映画を見た部屋は寒々と

して、喜び・楽しみ・笑いとは無縁の空間だった。

日本人観光者として建物全体から拒否されているような居心地の悪さを感じた。

### \* 止まらないバス

時速は80km以上出ていたと感じた。高速道路ではない。たった一車線の狭い一般道。両脇はとうもろこし畑がえんえんと続く。前方に人を荷台に乗せたトラックやバイク（ヘルメットなしの二人乗り）を見つけると警笛を鳴らして追い抜く。左右から抜き去る。町の中でもバスの速度は同じだ。私たちを乗せたバスはノンストップ。2時間3時間、山道も急カーブでも止まらない。警笛で眠りを妨げられ、私は前の座席のバーをギュッと握っている。

しかしそのバスも2回だけ道の真中で停止した。にわたりの散歩と羊の群れの横断の時だった。家畜たちは警笛や車体の大きさにも動じず、マイペースで移動していった。

### \* 謎の国

鴨緑江を隔てて隣国が見える。対する山はほとんど禿山で、斜面に畑らしい区切りがあるが作物が育っている様子は見られない。左の奥に煙突はあるが煙は確認できなかった。全く人の気配が感じられない。川が国境だというのに警備の兵士の影もない。何もないけれど越えられないバリアが緻密に張りめぐらされている。この時私たちはまだ知らなかった。地続きのある場所で核実験の準備が進められていたことを。



### \* 石碑の解釈を巡る謎

広開土王碑は6mを超え、見上げる巨石だった。石の表面はごつごつしていて、彫られた漢字もはっきりしない。正面左側の下方に問題の箇所があった。



「辛卯年（391年）に倭が海を渡ってきて百済・新羅を臣民とした」との解釈がされ、倭が大和政権のこととすれば日本人が朝鮮半島に力を早くから持っていたとの証拠となった。だ

が倭が日本である確証はないし、違う場所での争いかもしれない。当時の大和政権がこの地まで攻め入る力があつたのだろうか？

碑の文は漢字をどこで区切るかで解釈が変わっていくのだから。

碑文に関する本を現地で買ったが、その中に気になるところがあった。中国語表記なので確実ではないが、①漢字は中国国民の文字である。

②石碑は漢字で刻まれている。

③だからこの石碑は中国国民の歴史的遺跡である。という三段論法であった。文化財の重要性を表明しただけかも知れないが、高句麗という記述はどこにもない。

今後過去の歴史がどこに帰属するのか、歴史の取り合いとならないことを願う。

### \* 増えるカイダン

初代高句麗王「朱蒙」の山城跡といわれる五女山は険しい石の階段があつた。「何段位あるんですか？」「99段です」とガイドの丁さん。昇りきるとまた階段が。「あと199段あります」300、500、800、まだ山の中腹だ。もう千段はとうに越えたはずだ。近道があつたのでガイドさんの制止を振り切って駆け上った。細い垂直に近い鉄製階段を手すりを持って必死で山頂にたどり着いた。

「階段は全部で1999段でした。香港返還の1999年と同じです」と丁さんが訂正してくれた。でも本当に1999段だったのか、3000段はあつたような気がする。

頂上からの景色はすばらしかった。朱蒙もこの眺めを独り占めしたかつたのだろうか？

### \* 嬉しいハプニング

10月1日は中国の国慶節で休日が続くため、前後の日に結婚式を挙げるカップルが多いと通訳ガイドの石さんが話してくれた。集安のホテルでも丁度花嫁をお姫様抱っこしている新郎を玄関で目撃した。新婦はウエディングドレスだったが、付き添いの母親はチマチョゴリ姿だった。

別の会場へでも行くのか車を連ねてパレードが始まった。新郎新婦の車は生花の赤いバラで飾ったレクサスで、次の車は造花と風船が付けられていた。

この日（9月28日）は行く先々で似たような車の行列に出会った。

29日には瀋陽へ行く途中の高速道路が開通し、新しい道路（揺れを感じない）やトイレをさっそく使わせてもらった。運転手さんもよく知らない道らしく、途中で道に迷ってしまった。町に出てタクシーを拾い先導されてホテルに到着！

他にも思いがけないことは次々にあった。バスの中で世界史の授業が始まったり、遺跡巡りの道でおおろぎの種類についてのウンチクや、あちこちから飛び出すダジャレ、そして参加者の皆さんの歴史に対する深い思いを折りにふれて感じ取った。

ミステリーツアー一路平安。無事全員怪我もなく帰国。

ラストミステリーは私の個人的な変化だった。旅行中、朝はバイキング、昼夜は「満漢全席」？で少しずつ食べたつもりでもつい食べ過ぎていたのだ。家に帰ってすぐ量ったら2kgも増えていた。体脂肪は反対に減っていて、体重が戻った今も下がったままと維持している。あんなに泳いでもエアロビクスをしても減らなかった体脂肪率が、減った。

今回の旅行は時空の旅でもあった。B.C. 4世紀

頃から広開土王の時代、日露戦争、満州国と目まぐるしく駆けたことが私に変化をもたらしたのではないだろうか。

時空の旅と体脂肪率の相関関係の謎を解き明かすために、私はまた次のミステリーツアーを待ち望んでいる。



## ◎ 高句麗旧満州吟行記

会員：鈴木幸之助

俳句といえるほどのものものでないことは承知をしていますが、5泊6日の高句麗旧満州国紀行の旅程で思い浮かんだものを書き連ねましたので、ご笑覧下さい。

旅行に参加された方しかわからないところもありますので、俳句の情景を説明することは邪道だと思いますが、あえて若干の補足をします。

9・26 大連～長春

○ 果てしなき 大連港に 秋の雨  
大連港埠頭にて

大連港はやはり大きい。雨雲と靄が視界をさえぎり、ほんの一部しか見えなかったが、稼働中の大型クレーンが数多く点在しており、東アジア屈指の巨大港として開港したときの片鱗を見た思いがした。

○ 満鉄の 影を秘めたる 秋の暮  
旧満鉄本社前にて

夕暮れの中、旧満鉄本社前に立った。繁華街から少し離れた場所のためか人影まばらで、タイムトンネルを潜ってその正面にいるような気分になった。往時の社員が今にも玄関から慌しく出てきそうな気配が漂っていた。

9・27 長春～集安

○ 皇宮や 草生す薨 秋の風  
“偽満州皇宮”の中庭にて

長春は暑いくらいの日和で、爽快な気分最後の皇帝溥儀の皇宮前に下車したが、偽満州の字句を眼前にして観光気分が一気に消えた。皇帝

溥儀の蠟人形の悲しげな表情がまだ脳裏に残っている。

○ コスモスに 導かれたり 満州路  
長春から通化への車中にて



専用バスで5時間の移動をした。絶え間ない上下動・急発進・急ブレーキの連続と旧式トイレにうんざりしたが、見渡す限りのトウモロコシ畑と収穫最盛期の稲田の風景や道路わきに切れ目なく咲くコスモスに癒されて気分が和らぎ、次第に旅慣れした。

9・28 集安～通化

○ 秋日和 あまたの古墳を あたためり  
丸都山麓の洞溝古墳群にて  
青空の下、モズの鳴き声を聞きながら城跡と古墳群を見る。宮殿跡は荒れるに任せてあったが、それが一層往時の攻防の激しさや栄華の移ろいを醸し出していた。

○ 秋日さす 好太王碑 丘に建つ  
好太王碑を仰ぎ見て  
將軍塚や五号塚とは違って、50年ほど前に教科書で見たためか、好太王碑には妙な親近感を

覚えた。お賽銭があったのもおかしかった。

9・29

○ 秋の野良 子豚が走る 將軍塚  
米倉將軍塚にて



將軍塚は数件の農家の間道を通りぬけた小高い丘の上で雑草に覆われていた。丘に伸びた農道は家畜が放牧され、アヒルや子豚が隊列をなして眼前を横切った。貴重な遺跡がよく似た状態で散在しているのに驚く。

○ 錦秋の 五女山城は 空の中  
五女山城の山麓にて

周りの山を見下ろすように岩肌をむき出した五女山はあり、すぐ南米のギアナ高原を想起した。ギアナ高原と同様に山頂は草木が茂り、泉すらあった。

9・30

○ 幾万の 斃れし山に 野菊咲き  
東鶏冠山の戦場跡にて

○ 塹壕の 脇にリンドウ そっと咲き

203高地の林間にて

日露両軍の激戦の様子はロシア軍の頑丈なトーチカの壁に残された夥しい弾痕にその棲ぎまじさを思い描くことができた。ただただ 合掌するのみ。

雑句

○ 村々は トウモロコシの 中に在り

○ 朝霧に 紛れて舞いし 太極拳

○ 天女舞う 丸都山城 秋日和

○ 空青く 国を隔てし 鴨緑江

○ 平壤の 美女軍団は 秋の闇

○ 天高し 目覚めた獅子の 国慶節

## ◎ 懐かしの大連

会員：佐藤昭子

生まれ故郷の大連に行く旅があると聞いて、同じく大連生まれの山本玲子さんと胸おどらせながら参加しました。初めて見た「アカシアの大連」は、新しい大型ビルが次々と建ち並ぶ、中国の北の玄関都市に変貌を遂げていました。

しかし心を落ち着かせながら街の中を見ると、日本人が数多く住んでいた時代の建物が、びっくりするくらい沢山残っていました。駅も港の埠頭も、銀行やホテルも、そして満鉄の本社や舎宅群など「よくぞ、これだけ多数の文化的な建物を残してくれていた！」と少しうるうるしてしまいました。



とりわけヤマトホテルを見た時には「あっこのホテルで父と母が結婚式をあげ、そして私が生まれたんだ！」と感激ひとしおでした。

昨年、91歳で世を去った母は、よく大連の話をしてくれました。神明女学校に通い多くの友に恵まれたこと、海水浴に行った星ヶ浦で溺れかかったこと、家庭ではアカシアの花を、よく天ぷらにして食べたが、その美味しい味が忘れられないなどです。

大連の思い出を、いつも胸の底深く抱いていた母でしたが、なぜか「大連に、もう一度ぜひ行ってみたい」とは言いませんでした。

どうも自分が育ち結婚し子どもを育てた思い出の街の風景も人も、すっかり変わっているであろうと考え積極的になれなかったのでしょう。

しかし今回、大連、瀋陽、長春等々を歩いてみて、中国の人々が旧満州国の遺産を巧みに利用し都市づくりに生かしているのを知り、「やはり母に見せたかったな。昔の建物が大切に使われているのを知ったら、母も喜んだらうに…」との思いを押えきれませんでした。

同行した山本玲子さんは、わずか1歳の時、大連港からお母さんの背に負われ、日本に引き揚げてきました。当然玲子さんには何の記憶も残っていません。しかし大連港に立寄った時には、赤ちゃんだった自分を背負い、まだ小さい兄たち2人に「大連をよく見ておきなさいよ、この大連があなた達の生まれ故郷だったのよ！」と叫び続けたというお母さんの幻影を見る思いがしたそうです。

玲子さんのお父様は満鉄病院の医長をつとめ

ておいででした。満鉄病院を開業した日は11月3日だったそうですが、山本家では日本へ引き揚げてきた後も毎年11月3日には開業記念日を祝っていたそうです。貿易会社に勤めていた私の父もそしてお医者さんである玲子さんのお父様も大いなる誇りを持って新しい大地に夢を馳せたのでしょうか。父や母が青春時代を駆け抜けた大陸を旅しながら私も玲子さんも、我知

らず涙ぐんでしまうことがありました。

日韓市民ネットの旅行は、いつも歴史を学ぶ旅だと聞いていました。今回の旅でも高句麗や日露戦争、旧満州国など多彩な歴史の現場を訪れることができました。

今回の旅行が単なる生まれ故郷への懐旧に終わらないよう、少しずつ歴史から学ぶ目を養っていきたいと思っています。

## ◎ 日本軍は勝利したが

会員：田口良浩

旅順は明治37(1904)年に始まった日露戦争の激戦地。日露双方死力を尽くしての戦いでした。

私はこの旅を予見したわけではありませんが、たまたま去年「坂の上の雲」(司馬遼太郎著 新潮文庫全8巻)をよみました。伊予松山出身の秀才、秋山好古・真之兄弟が日露戦争に参加した様子を中心に物語が展開されています。

旅順の、あの戦いゆかりの地、東鶏冠山・203高地・水師営会見所を訪れました。203高地からは天然の良港 旅順港が望めます。両軍おびただしい死傷者を出した戦いの跡。今は多くの人々が訪れる観光名所になっています。

「坂の上の雲」をなぞりながら戦争の愚かさ、悲惨さにむなしい思いをした旅でした。



## ◎ 《倭》にはまっていたが・・・

会員：土岐良文

この度は念願の古代高句麗の地へ連れて行って頂き誠に有難く、心から御礼を申し上げます。

実はここ一年程前から『倭』に興味を持ち、『古代朝鮮と倭族・古代中国と倭族・倭族と古代日本・古代朝鮮・日本文化の基層を探る』と、乱読を重ねて参りました。古代高句麗の地に建つ〈好太王碑〉に記されている『倭』は、何を表現しているか？ そこに『倭』の影は残っているか？ などと興味を抱きつつの旅でした。

{スルーガイド・石さん}

第1日、大連に着き大連港を望み、日・清・露の3国の関係に思いを巡らし、今も働き続ける港の姿に、遠い日にここから命カラガラ引き揚げた人々の悲惨な姿を偲び、大連鉄道の「満鉄旧址」の碑や、マンホールに残された(MT)の文字に、満鉄にほぼその生涯を尽くした伯父の、在りし日の姿を思いました。

大連の街は定められた区画を担当者を決めて清掃するためか大変美しく感じました。夕刻飛んで長春。

第2日、旧満州国の最後の皇帝・溥儀の居城、今は「偽滿皇宮博物院」の広大な建物群とその居室等を見学したが、豪華ではあっても何かと窮屈な生活の日々を、怯えながら過ごしたこと

を偲びました。大勢の中国の人々の見学に驚き、元気な女性ガイドの説明に敬意を覚えました。なお各地での食事に際し、中国の人たちの巧みな箸捌きにも感じ入りました。

長春から集安に至る5時間程のバスの旅も、窓外の稲田や玉蜀黍畑や山林の樹木の景色に見とれていて、あっという間にしか感じられませんでした。



第3日、最初に『丸都山城』。AD197年築城と伝える城址。209年に遷都後、公孫氏の強大化に連れて国内城に遷都を重ねたが、240年に魏によって陥落させられ、更に丸都城も魏の刺史により攻略という。

[さざなみの志賀の都は荒れにし

を……]の歌が思われる様な丸都山城であった。西城垣の積石壁や、丸く周囲を削り加工した「礎石」が、枯れ果てた草叢の中に残り、確かに建造物の存在が伺われた。

山城入り口から右に広がる平坦地には、高句麗の特徴を残す墳墓・積石塚が累々と築かれていた。黒々と苔生した積石の崩落した姿や、石積の一部の修復されたものに混じって、盛土墳の存在が興味を引く。日本では普通に見られる古墳の姿である。それらの中にも『彩色壁画古墳』も含まれ、殆どが5世紀という。



集安市内に戻り、一時期国都の役割を担ったという『国内城』の僅かに残る城壁の址を見る。市内を南進し集安から鴨緑江を挟んで対岸の[北朝鮮]の緑少ない山々を望む。山上まで耕作しているかに見える光景は異様で、点在する家々も静まり返り、動きは一台の車が土煙をもうもうと上げながら走り去った一瞬だけであった。上流に見える銅精錬所の周囲の禿山共々、不思議な光景であった。

集安、そこは平壤に移るまでの古代高句麗の都の所在地で、ここを引き払ったのも騎馬系民族や漢民族からの度々の襲来の結果であったことであり、川を挟んで広がる高句麗の最盛期の版図を思い浮かべた。

集安市東部の『五塊墳5号墓』に向かう。2004年7月中国通信社が内部を公表したもので、『四神図』・『日月図』・『パルメット文様』等を、4段に積み上げた「隅持ち送り式」の天井・壁面に、ところせましと描き挙げた驚異の且つ多彩で雄大な壁画であった。

9月、樞原考古学研究所博物館で開催の「高句麗壁画古墳展」で、ビデオで紹介された同4号墓の壁画と、ほぼ同一企画で書き挙げた本物を今、実見している興奮！ 新設の誘導路の先の暗い扉のうちに広がる壁画が、花崗岩に直描されて水の滴る光景に暫し我を忘れて立ち尽くしていた。

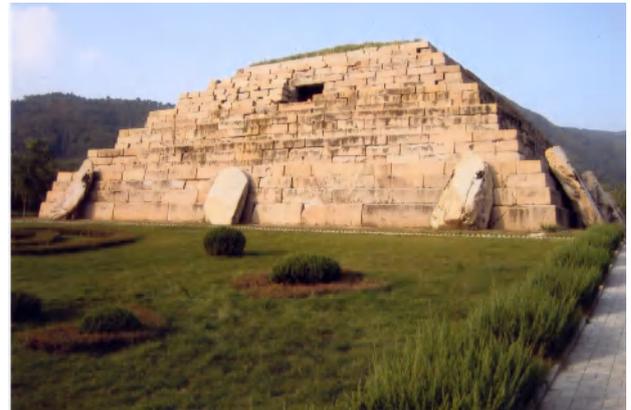
この壁画を鑑賞することができ、個人的には

今回の旅の期待の半分は満たされた。更に2、3の壁画古墳を回ったが、其の鑑賞は許されなかった。別にそれらの壁画を模写して展示する展示館があったので何とか鑑賞することはできた。

そして圧巻、『好太王碑』である。高さ6.2m、面幅各面1mを越す巨大な自然石の4面に、高句麗始祖の朱蒙にかかる伝承から、好太王の事跡と、建碑の事情、守墓人等について千八百余字で、やや硬めの角礫凝灰岩に陰刻で記している。内容について色々な問題を惹起しながら、1600年近くこの地に存在している。原石は『五女山城』から運ばれたと伝える。今、覆い屋に入れられ風雨に侵される恐れは無い。覆い屋の中に入れてもらい、目前にそれらの文字を眺め、十数個刻まれているという『倭』の文字の一つを確認することができた。

その後、好太王陵の石室を見学するため、陵の頂上に上る。並ぶ二つの棺床石、その下には陵墓確定の決め手となった《土専》があったのだ。《土専》には[願太王陵安如山固如岳]とある。

その後その東方に聳える「將軍塚古墳」も見学する。太王陵よりも巨大で立派な積石塚は、誘導の階段は設けられているが上るのも大変である。この陵墓は好太王の子、長寿王の墓という。好太王(391~412)長寿王(413~491)の在位。



その日は通化に泊り翌、第4日は桓仁を経て瀋陽に至る。途中、『五女山山城』に登る。石段の段数は99段と石さんのご案内。それならと軽い気持ちで挑んでみて驚いた。高さ15cm、段奥行20cm 足らずの石段が約1000段も続くではないか！ 上りの一方通行で引き返す訳にも参らず、息を切らして登る。心臓に悪い！ 漸く頂上に辿り着き息を継ぐ。そこが西門という。周りにはいっぱいモンゴリナラの実・ドングリが落ちている。



BC37年、高句麗建国の始祖・朱蒙（東明王）が築城という『卒本城』である。当時の中国の燕・前漢や、それに続く新などからの、絶え間ない干渉や侵略に対応したものであろうか……？

山上に残る大型建物址は、13.5m×5mの広さを示し、7個の礎石を残し6個の柱穴を残すもので、6単位の室が考えられるという。高句麗早期の堅耳陶の出土や建築規模等から、『王宮址』とされる。また別の建物は半地下式でオンドル跡を残し、鉄鏃・甲片等の出土から兵営跡とされる。海拔804mと示される「瞭望台」は、別名「点持台」とも表示される。その他多くの紀元前後かという遺跡がのこされていた。帰りは東側のなだらかな九十九折の道を下る。

下ってその山の全景を写真に収めようと試みたが、随分と遠ざかってからのことであった。全景のやや左寄り中央に、一本の筋が頂上に向かう。それこそが自分たちが喘ぎつつ登った石段の影。

山城を後にして一路、瀋陽へと向かう。途中では無煙炭の撫順～製鉄の鞍山を遠望し、本日

開通という高速道を通り、新しい手洗所を使わせて頂き、夕刻には瀋陽に着く。本日の沿道では、扇状地周辺での玉蜀黍畑やその収穫・乾燥の様子、その川べりには黄金波打つ田んぼの景色。近くの山々ではカラマツ・ポプラ・白樺の植林地が見られ、途中ではカラマツを満載したトラックとも行き交った。

瀋陽近くでも稲田が見られ、倭人の持つ稲栽培が普及しているのが感じられたが、聞くところによるとそこには[朝鮮族]の生活習慣しか見られなかった。でも山容は[倭]に似て穏やかで、緑濃く心の和む風景であった。

第5日は北瀋陽発、大連行きの特急列車に乗る。DA LIAN ← SHENYANGBEI と看板を掛ける。400km程を4時間で結び、途中停車は2駅である。車内では赤い蝶々の羽根をつけた少女に癒される。

大連に着き一路旅順へ向かう。約100年前に日露の大激戦地である。水師營の会見場と今は3代目という棗の木、東鷄冠山に残る彼我の多くの塹壕跡・砲台跡・爆発跡等々、未だに生々しい戦場のすさまじい残骸を見る。そして日露戦争最後の激戦地・爾靈山＝203高地に登る。海拔203mのその地を、爾の御霊の山と名付けたという乃木将軍と、その令息を偲び、その顕彰碑を拝して下った。

やはり何かしら気の重い時間であった。



最後の夜は[海鮮料理]。そして石さん差し入れの日本風のギョウザに舌鼓。今回の旅程では、全行程を通じて食事には軽い感触の気配りがなされていて感謝・感謝。

翌日第6日は朝一番の出発、それぞれの思いを胸に機上の人となる。

何かとお世話になり有難うございました。



## ◇お知らせ・紹介

この欄は、会員の皆さんへ各種ニュースや1～3ヵ月先のイベントのお知らせや、その他もろもろの紹介をしていきます。会員の皆さんからの情報も待っています。

### 1) 『ふるさと農林水産フェア・秋-食と緑の収穫祭-』のお知らせ

5月に開催された「ふるさと農林水産フェア・春」(主催:中日新聞社・東海テレビ・東海ラジオ)は3日間で37万人の人出(主催者発表)でにぎわいました。今回は「ふるさと農林水産フェア・秋」と題し、場所を愛知県体育館に移して開催されます。ブースの中には「国際交流ゾーン」が設けられ、韓国とメキシコの料理が味わえます。

民団愛知からは「韓花」が出店、5日には「ノリパン」出演、さらに3日間にわたって青年会愛知主催の「在日歴史パネル写真展」を行いますステージゾーンで、11月3日15時、4日11時から、韓国ドラマ「チャングムの誓い」に出演中の韓国女優キョン・ミリさんを迎えてのトークショー。韓国食文化や「大長今(チャングム)」にまつわるエピソードなどお楽しみ下さい。



時 : 2006年11月3日(金)～11月5日(日)  
時間 : 9:30～17:00 (入場は16:30まで)

入場料 : 小学生以上 前売券 600円 (500円相当のお買い物券付)  
当日券 900円 (500円相当のお買い物券付)  
入場のみ当日券 600円 ※ 幼児以下無料

チケットは主要プレイガイド、チケットぴあ(Pコード 984-734)、  
サークルK、サンクス、ローソン(Lコード 46474)、  
ファミリーマート、セブンイレブン、中日新聞販売店等にて販売

開催場所: 愛知県体育館 〒460-0032 名古屋市中区二の丸1-1  
TEL: 052-971-2516  
地下鉄名城線「市役所」駅より徒歩5分

お問合せ「ふるさと農林水産フェア・秋実行委員会事務局」  
TEL: 052-221-0732

## 2) 名古屋韓国学校 第44周年開校記念文化祭のお知らせ

毎年恒例となりました名古屋韓国学校の開校記念文化祭が11月3日に開催されます。韓国の文化や味に気軽に触れられる絶好の機会です。入場は無料です。ぜひお出かけください。

<と き>

2006年11月3日(金)

第1部…11:00～12:00

昼食…12:30～14:00

(婦人会による韓国料理のバザーがあります)

第2部…14:00～15:00

☆初等部(小学生)の歌や踊り、韓国語による腹話術、  
合唱、民族舞踊など内容盛りだくさん!!

<ところ>

名古屋市中村区・愛知韓国人会館

地下鉄東山線亀島駅下車、3番又は4番出入口より徒歩すぐ。

<お問い合わせ>

名古屋韓国学校 052-452-0321

<お願い>

会場に駐車場はございませんので、公共交通機関でお越しください。

### 編集後記

(2006/10/19)

会報 No. 35 をお届けします。急に寒くなりましたが、皆様風邪など大丈夫でしょうか?

さて、先日、核実験問題で騒がれている中、高校時代の友人とソウルに行ってきました。ものすごい厳戒態勢でもひかれていると思いきや、町中は普段と特別変化なく、人々もいつもと同じ雰囲気でした。宿泊先近くのソウル市庁の前で反核のミニ集会が開かれているのを見るぐらいでした。それも十数人ぐらいで、みんな足も止めずにちらっと見て素通り、回りに警官が少しいたぐらいです。

それから、友人が疲れて寝てから、一人夜中に清溪川を見て来ました。ちょうどホテルの近くから始まっているみたいで、巻貝のモニュメントの先に滝がありました。そこが清溪川の始まりのようです。一時間ぐらい下流に向かって歩いたのですが、平日の夜中なのにウォーキングしている人もかなりいました。また、川に入って川の清掃をしている人々や、川岸や橋の工事をしている人々もいて韓国人がこの清溪川に対する気持ちが伝わってきました。そんな中、のんびり歩いていると所々水面にライトが当たっていて、その光の先には小さな魚達がたくさん集まって泳いでいました。生きた川でした。

池貴己子さんのイラストは、NHK ラジオ講座 1996 年度から、韓国の古典を題材としたものです。

編集：早川 潤 〒472-0002 知立市来迎寺町木ノ根田 10-4  
TEL/FAX 0566-82-5466 MAIL junhykw@pop12.odn.ne.jp

